

機嫌のよしあし

毎日のことである。機嫌のよしあしは免れない。あるいは体の具合にも変りがある。天気の変化もある。昨日一昨日の疲労のぬけぬけこともある。家のこと、友のこと、身のことに付て、何かと屈託も折々はある。始終にこのこと上機嫌でいるということは我々凡人にはなかなかむずかしい。機嫌の悪い時は事々ものうく、おっくうになる。常には左程にも思わぬことが、うるさくもなればいらいら気にも障る、まして心に心配ごとでもあるという時には、人の心配も知らないでと、ついじれったい気にもなる。だれであったか読み人は忘れたが、こういう歌をどこかで見ることがある。

我が胸のけふの憂ひも知らずして 袖にまつはる子供達かな

お母様にさえ時にはこういう感じがあるという。姉さんにもあるという。二十人三十人と大勢の幼児をあずかる若い身には、あとで済まないと思いながらも、つい起こりやすい感じである。保姆諸君とて幼稚園のみに生きているのではない。親もあり弟妹もあり恋もあろう身の、小さい胸につつま切れぬ物案じはだれにもあることである。教職の貴さをよく知ればこそ抑えてはおれ、強いて忘れようところを努めておれ、秋を知る遊園の立木の蔭にふと憶い出でてそつと涙をふくような事もある。けれども笑わねばならぬのである。声張りあげてうたわねばならぬのである。右から左から集まる幼児に一年三百六十五日間ご機嫌でいなければならぬのである。

——倉橋惣三選集第二卷(フレーベル館)より——

幼児の教育 第六十九巻 第十号

十月号 © 定価八〇円

昭和四十五年 九月二十五日印刷
昭和四十五年 十月 一 日発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所 フレーベル館にお願いいたします